



宇宙

Vol.55

●題字は彦町正喜氏



カンボジア アンコールワット (宮野日和氏撮影)

■ 理事長メッセージ 2	■ 日田漫歩 ④① 8
■ カンボジア・ベトナム研修 3	「大名統治下の解明を」
■ 乗馬体験 6	■ かんたんレシピ no.7 8
■ 聖陵トピックス 7	

運

日本行の最後の特別機が出るという事で、バグダッドに戻った。但し、飛行機の出る時間が不明で、飛行場近くのイラク人の友人の家に泊めてもらう事になった。それより飛行機に乗れるかどうか問題で、当時2,000人いた日本人の1/10が乗り、それ以外の人は残る事になる、抽選である。自分は当然抽選に当たって、日本に帰れる事になった。

泊めてもらった家には、友人の妹が居た。ヨーロッパの大学で植物学を学んだ人で、一般の人の様にスカーフで顔を隠す事はなかった。当然ながら美人である。離陸許可が出る迄、二人で飯を食ったり、双六（アラビア式）をやって時間を過ごした。しかし、男女が一緒に写真を撮ることも出来ない国で、一つの部屋で二人きりである事は大変なことだ。時々、モーゼが持っていた様なグルグル巻きの杖を持った白ひげ爺さんが偵察に来た。

そして、離陸許可が出た。その時、彼女が「こ

の戦争が終わったら東京に行く、その時会ってくれるか？」と聞いてきた。自分は「もし、この戦争が終わったら東京で会おう。でも、その時、自分は誰かと結婚してるかも知れない」と答えた。その時、彼女が言った言葉は「その事はOKだ、私は第2夫人でも第3夫人でも良い」というセリフであった。ヨーロッパで高等教育を受けた彼女だったが、やはりアラビアの女であった。突然、真っ暗な滑走路に灯がついた。敵の爆撃を避ける為、この数分間しかライトはつかない。その短い間に建物の端っこでちぎれる程スカーフを振って立っている彼女を見た。飛行機が動き始めるとすぐに彼女の姿は闇の中に消えた。2時間位すると護衛戦闘機3機も一機ずつ右前に一度出てバンク（主翼を上下に振るサヨナラの挨拶）をして後方へ消えて行った。日本に帰って一杯水を飲んで医療をする生活。そういう日常に戻る事が不思議な気がした。

理事長 岩里正生



カンボジア・ベトナム研修（視察）旅行 ～報告書より～

参加メンバー：砂原賢士（医師）、森山ひとみ（臨床検査技師）、宮野日和（看護師）、
本川登志子（医局秘書） 他6名

研修（視察）場所

カンボジア：アンコール小児病院・ハンディキャップセンター・だるま愛育園

ベトナム：シーズー病院

日程：11月20日～

11月20日

聖陵会からは4名が参加し、毎年カレンダー等を販売した益金をカンボジアに寄附してくれている筋ジストロフィーを患う河津実幸さん、彼女のお母さんとお兄さん、月に一度日田に来られていて実幸さんのリハビリを担当されていた作業療法士の森本さん、大分合同新聞の刀根さん、シエムリアップ空港で合流した障害福祉サービスをされている芝さんを入れて10名での旅となった。

7:30 病院を出発し、午前の便でベトナムハノイへ。日本からの出国でベトナム航空とJALの共同便だったこともあり、手続きや準備にかなりの時間は有したが、車椅子の輸送など、さほどトラブルもなく搭乗することが出来た。ハノイでトランジットしシエリムアップへ。シエリムアップ空港からホテルへの道のりは15分ほど、途中5年前にはなかったらしきカフェやレストラン、コンビニのネオン、コンクリート舗装された道路があり、10年ほど前には1つしかなかった信号も5つに増えているとのことだった。



遺跡前

11月21日

朝よりバスに乗り込み、アンコールトムへ。話には聞いていたものの、とても足場が悪く車椅子で進むのは困難で、想像以上に蒸し蒸しとし38度を超える暑さの中、みんなで車椅子を抱え前へ前へと少しずつ進んだ。観光客がとても多く、南大門のトゥクトゥクや車の列には驚いた。パイヨンのワールの微笑みの像は見ていると吸い込まれるようでとても印象的だった。その後タプロームへ。

がじゅまるの木が長い年月をかけ遺跡に入り込み、少しずつ遺跡を破壊していた。不思議とそこは涼しげで少しひんやりとしていた。昔に比べどこの場所も観光客がとても増え、遺跡までの道もかなり整備されているとのことだった。

11月22日

（アンコール小児病院）

アンコール小児病院には、毎日400人以上、多い日には600人をこえる子供達が外来を訪れている。今では、アンコール小児病院は24時間体制の救急病院として、シエムリアップ市内のみならず、近隣の地域の人々にも信頼される存在となっている。今は個人情報や感染症の問題で中に入ることはできず残念だったがこれも仕方がない事かもしれない。

来年には様々な問題をクリアして、当初からの目標であったカンボジア人によるカンボジア人のための病院として自立する事ができそうだ。ポルポト時代、4千人いた医師のうち生き残ったのはわずか40人だけだった。現在、アンコール小児病院のスタッフ211名のうち98%がカンボジア人スタッフだそうで、以前当院に研修に来たことがあるウツティー医師も今では心臓の手術を何



アンコール小児病院

例も行っていると聞いた。

私達が小児病院を訪れた時、隣接した教室では看護師の教育が行われていた。カンボジアでは12人に1人が5歳未満で亡くなるそうで、アンコール小児病院は医師や看護師の教育施設としての役割も担っているそうだ。

外から見た待合室は順番を待っている患者さんでいっぱい、職員が寄附してくれたぬいぐるみをオマさんが子供達に渡していった。

(ハンティキャップセンター)

現在は新たに地雷で損傷する人は年に2～3人程と減少しているようだが、交通事情が悪く交通事故による被害者が月に2～3人程と増加しているとのことだった。先にもふれたように信号機は増えているが、バイクや車の数が増え、信号は目安程度で守られておらず、シエリムアップだけでも事故で日に5人は亡くなっているそうだ。以前と変わらず、バイクの免許制度がなくヘルメットも付けず、2人乗りはもちろん、子どもも赤ちゃんも大人も3～5人乗りはよく見られる光景だ。

過去の分も含め地雷での利用が60%、交通事

故が40%を占めていると言われていた。

(だるま愛育園)

トンレサップ湖に近いところにある孤児院、だるま愛育園に行った。孤児院をされている内田さんは1991年に訪れたカンボジアで、泥水を生活用水として暮らす人々を見て、井戸を掘り続け、不幸にも親をなくした子供達を引き取って生活をされている。聖陵ストリームにも3度来られた事があり、子供達が一生懸命練習したカンボジア舞踊を披露してくれた。

孤児院に着くと笑顔で走って迎えてくれる子供達。この日は学校を休んで朝から私達が来るのを待っていてくれたようだ。練習中だというカンボジアの民族舞踊を披露してくれた。その後、河津聖駒さんが子供達とのレクリエーションを企画し、一緒に体操をしたり、新聞を使った遊びでは私達も参加した。子供達の生き生きとした姿とキラキラした目、笑顔を見るととても温かい気持ちになった。



だるま愛育園

11月23日

(ツーズー病院)

ホーチミン市内から車で約20分、産婦人科病院のツーズー病院は、ベトナム戦争の枯葉剤の被害で、下半身が繋がった結合双生児としてベトナムで生まれたドクさんが勤務している病院だ。ドクさんは20年前、日本などの援助があり、分離手術を受け、現在に至っている。残念ながらベトさんは亡くなっていた。実際にお会いしお話を聞くことが出来た。アメリカ軍によって枯葉剤が

蒔かれ、その場所には20～30年経っても植物は育たないそうだ。当時戦争による被害で生存者は400万人ほどになったそうだ。年月が経つにつれ直接的な被害は少なくなっているそうだが、森の中など箱ごと落とされたところは、年月をかけ枯葉剤が流れ出し、今も立ち入ることの出来ない場所が存在していることを知った。

ツーズ一病院で生まれた奇形児を標本として保管してある部屋に案内された。何十と並んだ瓶はとても衝撃的だった。院内の見学をする際は、衛生面に配慮し、シューズカバーを着用するように言われた。現在、約60人が生活しており、神経の病気が一番重症で、60人のうち半分位は何もできず、国からの援助だけでは足りないと言われていた。ベトナムドクさんの分離手術後、日本からはたくさんの応援をしてもらったそうだ。

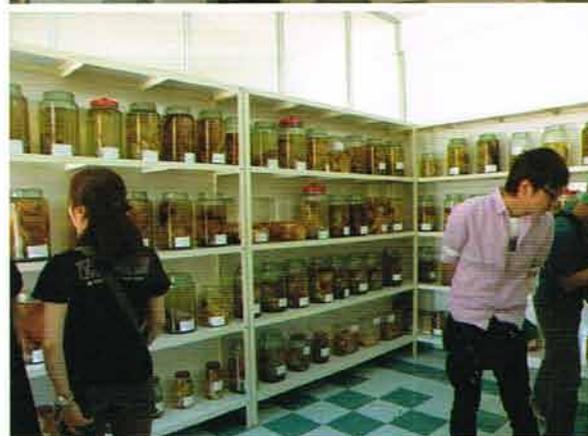
研修を終えて

カンボジアではホテルの水道水とトンレサップ湖の水の採取を行った。ホテルの水道水は1100個/100mlの大腸菌が検出された。

今まで聖陵会を通して寄付金を渡すことをしてきただけで、現地の事や現状を考えたことは無かった。今回の訪問で自分の目で現状を見て、多くの子供が生きていくため、生活していくために色々な協力が必要なんだと思った。これから自分が協力できる事は寄付金を渡すことぐらいしかできないかもしれないし、ほんの少しの協力しかできないけど、それでも続けていきたいと思った。また機会があれば是非行きたい。(森山)

今回、空港での大きなトラブルはなかったが、車椅子では一般のようにすんなりゲートを通ることは難しく、車椅子の輸送についても各航空会社、対応がまちまちで、交渉の際には英語力も必要だと感じ、言葉の大切さを痛感した。

実幸ちゃんと旅をし、普通では体験できないことがたくさんあった。また、それにより気づけたことも多くあった。なにより、今回の旅で実幸ちゃんがカレンダーの販売や講演料などを貯めたお金を、それぞれの施設へ寄付している姿を身近でみて、彼女の思いや前向きで行動力のある姿に感動し、それを支える家族の素晴らしさにも感銘を



ツーズ一病院

受けた。今回はさまざまな方々と旅し一緒に時間を過ごし、たくさんのお話を聞くことが出来た。それも私にとって良い経験になり、今回の旅全てが、これからの人生の貴重な財産となった。(宮野)

ホテル周辺は道路も舗装されて以前みたいに砂埃が舞うところも少なかったが、アンコールワットや夕日の見える寺院、食事場所等ほとんどの場所では、ちょっとした事で車椅子がつかず、常に車椅子を抱えながら前に進む状況は5年前と変わらなかった。実幸さんと一緒に旅行だったから体験できた事もたくさんあった。訪問する先々で実幸さんはカレンダーの益金を寄附しており、ベトナムでのツーズ一病院訪問はドクさんに会いたいという実幸さんの希望でもあった。来年のカレンダーのテーマは「心と心で握手」。日常とは違う風景を見て、日本とは違う文化を体験し、いろいろな事を感じることができた今回の旅行に参加させて頂き本当に感謝している。また、カンボジアの子供達の笑顔を見に行きたいと思う。(本川)

◆乗馬体験

聖陵岩里病院から車で約5分、美濃の交差点から少し上がったところに馬がいるのをご存知でしょうか。お天気が良い日には敷地内に放牧されており、車が走っている道路からも見えます。この馬達、以前は御夫婦が飼われていたのですが、縁あって2年程前より聖陵会の職員数名と有志の方々でお世話をしています。

ラッキー（ポニー）・リキ・ボスの3頭がいますが、とても人懐っこく愛嬌がある馬達です。昨年は日田の川開き観光祭の際、乗馬体験として100人の子供達を馬（リキ）に乗せました。病院付近を散歩している馬をみかける事があるかもしれません。その時は気軽に声をかけて下さい。



◆院内研修（病院・ストリーム）

〈病院プログラム〉

①人権啓発推進 DVD

②演題発表

栄養教育科／病院の減塩食1日6g未満って知っていますか？

臨床検査技師／30代からのメタボ対策「あきらめないでっ、そのお腹」

病棟看護師／COPDと慢性心不全を合併している患者の、BIPAPリハビリの1症例

安全管理／自らに自ら気づく

感染対策／食中毒と感染対策～必殺プロの仕事人～

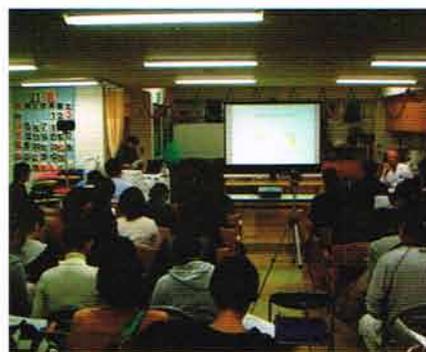
〈ストリームプログラム〉

①口腔ケアについて *T&K(株)

②認知症について 3階介護

③感染について ノロウイルス対策～吐物の処理方法について～

11月17日（土）に院内研修が開催されました。7月の全体研修と違い、今回は院内の研修とあって笑いの多い研修となりましたが、日頃気になる内容が演題となっていたため皆、真剣に研修に取り組んでいました。



岩里病院 財津 丸美

クリスマス会

H24年12月22日(土)、ストリームにてクリスマス会を開催しました。

今年のテーマは「銀河鉄道の夜」

ゲストの方、ストリーム利用者、銀河、メーテルの子ども達とご家族が参加され、4会場にて行いました。当日は小雨が降る寒い日となりましたが、たくさんの方が出席してくださり、お陰様で明るい賑やかなクリスマス会となりました。ありがとうございました。

来年も更に多くの方が笑顔になれるクリスマス会を開催できればと思います。

クリスマス実行委員長



◆バス遠足

10月28日(日)に花月クリニックにかかりつけの患者さんたちと1年に1回行われているバス遠足へ行きました。

まず、日本の名所に指定されている別府の竜巻地獄と血の池地獄へ行きました。竜巻地獄では、地下の間欠泉から吹き上がる温泉を見学しました。吹き上がる間欠泉の前で、患者さん方は、院長先生やスタッフと記念写真を撮りました。その後、血の池地獄へ行き、思い思いに見学やお土産を見たりしました。

地獄めぐりを終え、少し早めにお土産を買いに別府海鮮市場へ行きました。別府は海が近いだけあって、魚の開きや加工食品が数多くありました。普段あまり遠出をしない患者さんたちは、お土産を楽しそうに選んでいました。中には両手に抱えきれないほどのお土産を買われている方もいました。

別府を後にし、最終目的地の杵築へ向かいました。

杵築では、杵築衆楽観へ行き、昼食とお芝居見物をしました。その日は、たまたま、

特別ゲストで九州演劇協会会長の玄海竜二氏も出演されるということで、普段とは一味違うお芝居を観ることができました。

早朝から集まったにも関わらず、スタッフよりも患者さんのほうが元気で、とても楽しまれていたようでした。体調を崩された方もいましたが、同行しているスタッフが付き添いすぐに体調も回復したということで、安心しました。これからも、続けて行けたらと思いました。

花月推進委員会 岩里病院看護師 杉 晃介



日田漫歩 ④

「大名統治下の 解明を」



梶原 義則

古刹の長善寺住職で市文化財保護員協議会長、市史編纂など何かと忙しい。ときに歓談するなかで、郷土史や有職故実など何かと教えられることが多い。昨夏のこと、「えっ」とのけぞった。

「昭和学園高のつい向こうの西有田地区の一部や東有田は幕藩時代、久留島藩（玖珠町）の領地。郡代（代官）支配地ではなかった」

「???」。というのも、郡代の布政所とは目と鼻の先。その辺り一帯は、てっきり天領とばかり思い込んでいたからだ。

その大神さんが主宰して昨年暮れ、江戸時代最初の日田藩主、小川光氏の子孫の歴史講演会があった。光氏は1601年に入部（日田・玖珠郡2万石）し、永山城（現・月隈山頂）を築いた。日田市史は「代官」と位置づけているが、子孫は家譜や史料を基に「大名」と明確に指摘。後年、「赤ひげ先生」と呼ばれる小石川養生所の小川笙船を生んだという。

1616年、譜代の石川忠総（6万石）が移封され、永山城や豆田町を整備。1639年、布政所が置かれ、永山城は廃城に。

このころの史料はほとんどない。市教委は県史跡指定に向け一昨年から永山城の発掘調査を進め、本丸御殿の礎石や遺物、搦手門の礎石、櫓門の石垣などを発見。更に、石川治世下のころ描かれた江戸期最古の絵図を、大神さんが三重県で発見。「裏門」の存在も分かった。

「関ヶ原の戦の後、九州の外様大名ににらみを効かそうと日田に大名を置いたが、徳川覇権が落ち着き、武力不用となって代官を配したのでは」と大神さん。「城下町にルーツを持つ豆田町など大名支配のころはほとんど知られていない。もっと解明したい」



永山城跡発掘光景

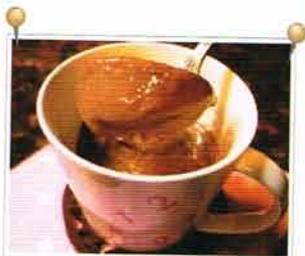


大神信詮さん(64)

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

かんたんレシピ no.7 マグカップチョコプリン

【材料】(マグカップ1個分)
チョコレート/30g
卵/1個
グラニュー糖/大さじ1
牛乳/100ml



【つくりかた】

- ①チョコレートと牛乳を電子レンジにかける。チョコレートと牛乳100mlの中から大さじ1をマグカップに入れ、500wの電子レンジに30秒かけます。チョコレートがとけたら、全体を良く混ぜます。
- ②卵、グラニュー糖、牛乳を混ぜる。卵にグラニュー糖を加え、よく混ぜます。さらに残りの牛乳を加え、全体をよく混ぜます。
- ③とけたチョコレートに卵液を加える。とけたチョコレートに、茶こしを通して卵液を加え、よく混ぜます。
- ④電子レンジにかける。500wの電子レンジに約1分50秒かけ、ラップをして余熱で火を通します。粗熱が取れたら、お好みで冷蔵庫で冷やしてお召し上がりください。

編集後記

またまた発行が遅れてしまいました。今年度のメンバーでの「宇宙」はこれで終わりです。次回号からは新しいメンバーでの「宇宙」となります。今年花粉は多いと予想されています。花粉症の予防を今の時期から行わないと、大変かもしれませんね。・・・いや、もう遅いかも・・・

広報委員会「宇宙」担当



医療法人 聖陵会

- ホームページ <http://www.seiryu.or.jp/index.html>
- E-mail seiryu@seiryu.or.jp

救急指定 聖陵岩里病院

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達支援センター銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院(カンボジア)